

いいだ未来デザイン2028 原案

「いいだ未来デザイン2028」原案は、これまで地区別懇談会や分野別懇談会などで出された思いや考えに未来デザイン会議での検討を加えまとめました。

平成28年度は、この「いいだ未来デザイン2028」原案をもとに各地区や各分野、小中高生を含む若い世代との意見交換を行い、未来デザイン会議の場においてさらに検討を深めます。

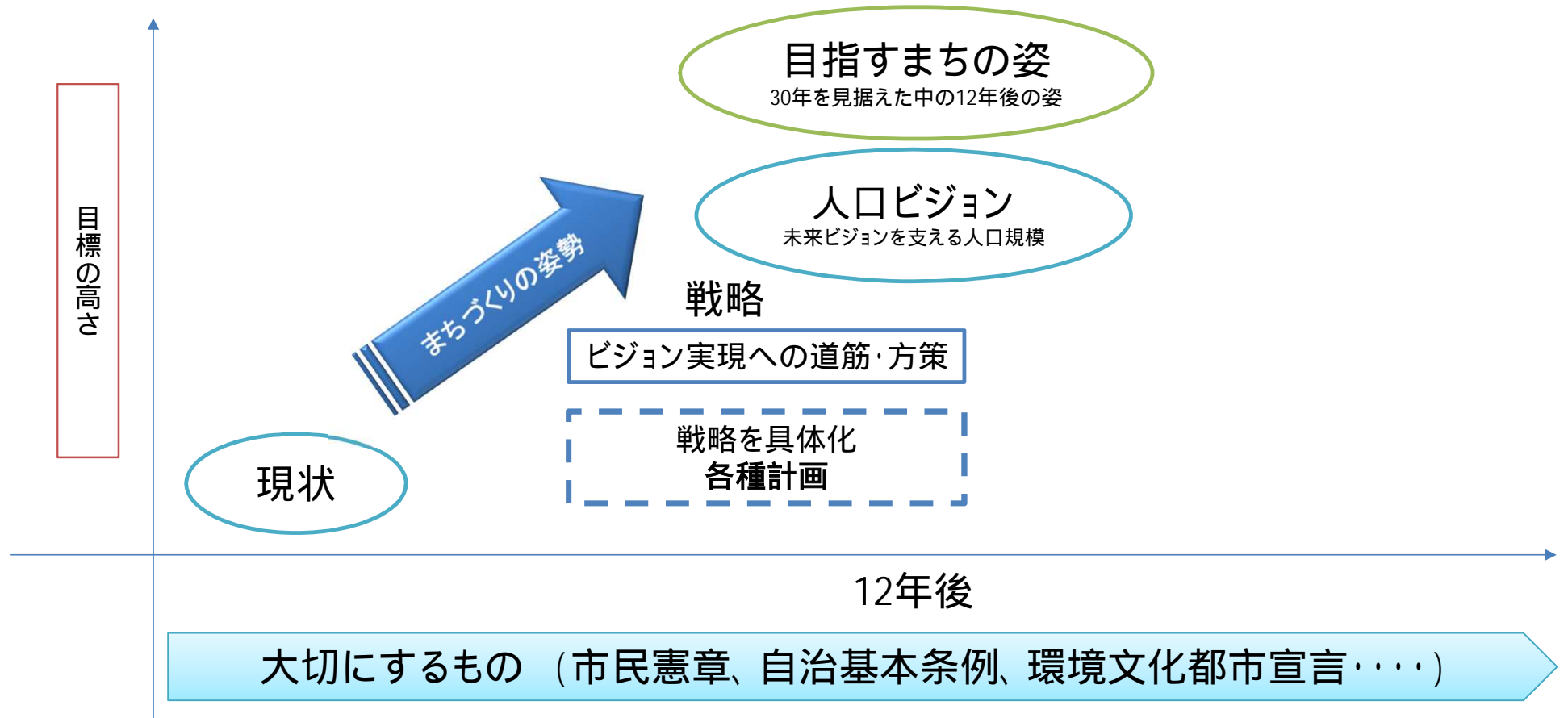
まずは大きな指針となる未来ビジョンから検討を始め、ビジョン実現に向けての道筋や方策などもみんなで考えていきます。

平成28年3月
飯田市総合政策部企画課

いいだ未来デザイン2028原案の構成

(いいだ未来デザイン2028の策定の考え方)

人口減少が全国的に進行する中で、持続可能な地域づくりは、地方都市における大きな課題となっています。
また、間もなく飯田市が迎えるリニア中央新幹線開通、三遠南信自動車道全通は、全国或いは世界との時間的距離を飛躍的に短縮することになります。
世代の価値観の変化、グローバル化の進展は、多様性を発揮し、内外と交流することによる革新へのチャンスと捉え、私たちが生き生きと輝くためのプラス効果として最大限に享受する必要があります。
この地域が目指すまちの姿を実現するための道のりには、地域の皆さんの知恵と力の結集が必要であり、「いいだ未来デザイン2028」は、地域、事業者、団体、NPO、行政、さらには市民の皆さんが思いを共有し、「当事者意識」を持ちながら、各々の立場で「飯田の未来づくり」にチャレンジしていくためのビジョンとして策定します。



飯田の歩み 飯田市は、これまで大火や三六災害からの復興、周辺町村との合併、社会経済情勢の変化等を経験する中で、もう一步前へ踏み出す努力を重ね、地域の課題を解決してきました。その際、一貫して歴史・風土からなる多様性を尊重しつつ、学びの気質、共感による「結い」の心に根ざした地域づくりがありました。

飯田を取り巻く30年先の状況 世界人口は、アジア地域を中心に継続的に増加し、2050年には約90億人に達します。2030年には中国の人口がピークに達し、その後、インドの人口が増大することで、中間所得層の圧倒的な購買力が増大し、食糧・水・エネルギー問題が慢性化すると予想されます。また、人口構成における生産年齢人口の減少とともに、人財獲得競争の激化が進む見込みです。

国内では、人口減少、少子化、高齢化が進む中で、公共施設等のインフラの老朽化、気候変動がもたらす影響への対策の必要性が顕著となります。一方で、リニア中央新幹線開通により形成される6,000万人の経済圏（スーパーメガリージョン）が、社会に大きな変化をもたらすと言われています。

飯田市にあっては、混沌として流動的な変化の激しい大交流時代に、ヒト・モノ・カネの資源を活かした戦略的な取組が求められます。

世代の価値観 2028年には、新たな価値観を持った若い世代が、働き盛りで、子育てをする年齢に達し、その後の社会の中心的役割を担うことになります。この世代の価値観が、暮らし方、生き方の変化に大きく影響すると考えられ、価値観の変化を踏まえた地域づくりが求められます。

市民憲章、自治基本条例、環境文化都市宣言等（30年先の飯田の未来を考えると、大切にすること）

キャッチフレーズ、都市像（今後、未来デザイン会議で検討）

目指すまちの姿 ~リニアがもたらす大交流時代に、多様性が輝き、世界に届く価値をみんなでつくる~

これまで飯田が培ってきた文化によって、飯田ならではの、飯田だからできる、みんなでつくりたい「暮らしの姿」「まちの姿」を8つの姿として描きました。これから訪れる変化の激しい時代にあっても、多様な価値観を認め、みんなで新たな価値をつくる魅力ある暮らしが実現できれば、世界に届く特別な価値となります。

人々が暮らしたい、訪れたいと選ばれるまちは、誰もが生き生きと輝き、魅力にあふれています。

これまで飯田は、地域に根付く多様性の中で育まれた価値を発展させ、全国或いは世界にまで通じる文化にしてきました。飯田に生きる私たちが当たり前と感じる暮らしは、移りゆく時代の変化を自らの力にして培った個性的な文化に彩られ、魅力ある暮らしの姿を表しています。これから飯田が迎えるリニア中央新幹線の開通、グローバル化の流れや、世代の価値観の変化の影響を受けてもなお、この飯田の姿を持続するためには、益々、飯田が培ってきた文化を発展させることが大切になります。

だからこそ私たち飯田市民は、みんなの暮らし、仕事、交流など様々な場面で、多様な価値をつくり、またその姿を応援します。多様な価値をみんなでつくり、それぞれの価値を認め合う文化があってこそ、暮らす人も訪れる人も、誰もが共感し、自己実現の喜びを実感できる魅力あふれるまちの姿となります。

そして「飯田ならではの、飯田だからできる」というまちの姿の実現は、時代の流れとともに光を放ち、全国更には世界に届く「可能性」や「勇気」となります。

学びあいにより生きる力と文化を育むまち

一人ひとりの好奇心に対応する様々な学びの場に多くの老若男女が集い、自分や地域の将来を考える活動に関わっている。その姿に学び、子どもたちもまちづくりに積極的に提案・行動し、社会の一員として地域に貢献している。飯田の学びの伝統を生かした人づくりにより、地域に誇りを持った人財が飯田や世界を舞台に活躍している。人形劇や伝統芸能に様々な立場で関わる人の想いが地域につながり、文化活動を大切に心が世代を超え受け継がれている。

私らしい暮らしのスタイルを楽しむまち

都会との時間距離が大幅に短縮され、豊かな自然環境や文化の中で、都会での仕事と飯田市での農ある暮らしを両立し、質の高い地域コミュニティの中で自分の存在意義を感じながら、家庭や地域も大事にしていける「私らしい暮らしのスタイル」をつくって楽しんでいる。日常生活文化圏を共有している南信州地域や三遠南信地域などの広域的な地域連携の取組が進み暮らしやすさを実感している。国内外からの移住者が増え、その一人ひとりが社会の一員として積極的に地域活動に参加し、交流している。

地域の応援で子育ての幸せが実感できるまち

豊かな自然や文化、特色のある充実した教育や充実した医療のある環境の中で、親が子育てに自信を持ち、地域もみんなで子育て・子育てを見守り、支え、応援し、地域に子どもの笑い声が広がっている。子育てと仕事の両立支援により、保護者が安心して就労できる環境が整備され、家族みんなが、いつも明るかに暮らしている。

人と人がつながり、安全安心に暮らせるまち

災害に強い社会基盤の確保と、最悪のシナリオの予測と備えにより、市民の生命、財産が守られている。情報通信基盤の安定的な整備と飯田の強みである人と人とのつながりにより地域の中で一人ではないと実感し、穏やかに安心して暮らしている。中心拠点、広域交通拠点、観光拠点がつながり、住む人をやさしく包み、国内外から来る人をあたたかく迎え入れている。



健やかに生き生きと暮らせるまち

多世代の交流のつながりや一人ひとりの知恵や力を生かせる緩やかで程よいコミュニティにより、社会と関わり地域に貢献しながら、支えられ、見守られ、生涯を通じて自分らしい健康な生活を送っている。市民、民間事業者、行政のつながりによる「介護、福祉、医療の連携体制」が整備され、高齢になっても安心した暮らしを送っている。

人と自然が共生する環境のまち

一人ひとりが身近にある豊かで貴重な自然の恵みを実感し、市民自らが考え、行動する環境活動によって、地球にやさしい暮らしを実践している。気候変動の影響による自然災害、生態系全般への影響、健康への被害、農作物への影響を緩和し、適応していく取組が進んでいる。

地域の誇りと愛着で20地区の個性が輝くまち

地域固有の自然や文化が持つ価値をみんなが認め合い、それらが大切に保存継承され、地域づくり、人づくりにも活かされている。地域を思う気持ちを大事にして、自分の住む地域に誇りと愛着を持ち続けることで、地域の価値が再発見され、個性となる。その一つひとつの個性を大切に互いに高め合いながら、飯田の魅力に磨きをかけている。

持続的で力強く自立するまち

多様な産業の発展とともに新産業の創出や地域産業の高付加価値化への挑戦を応援し、世界に発信できる地域ブランドがつけられている。特色ある地域産業の発展により、若者の地元回帰や定着化が進み、地域産業の担い手として飯田を舞台に活躍している。「人的ネットワーク」をベースにした「知の拠点」で、様々な研究開発が行われ、国内外に新たな価値を発信している。

飯田のまちづくりの姿勢 ~飯田が持つ可能性を信じて、多様な主体が行動する姿勢~

私たち飯田市民は、学びによる物事の本質を理解する気質を持ち合わせ、時代の動きの節目に変化を取り入れて独自の文化を紡ぎ、多様で寛容な質の高いコミュニティを形成してきました。昭和22年の飯田大火後の復興の際には、地元中学生の自発的な取組により、りんご並木がつくられ、その精神は人形劇のまちづくりなど様々なムトス活動に広がっています。産業面では、元結に改良を加え、光沢のある丈夫な製品を作り出す水引産業に始まり、食品産業、近年では市田柿の高付加価値化や航空宇宙プロジェクトなど地域経済活性化プログラムによる多様な産業政策を展開しています。また子育て支援や健康づくりなど協働による暮らしやすい地域づくりが進み、さらに地域環境権による分権型エネルギー自治の取組は、先進事例として全国的な注目を集めています。これら飯田の特徴的な取組は、ムトスの精神に基づくものであり、飯田が持つ可能性です。この精神をリニア時代を担う若者たちに引き継ぎ、多様な主体の行動姿勢によって「目指すまちの姿」の実現を目指していきます。

変化の激しい時代を生き抜く力の源泉 「学び」

変化のスピードが加速することから、変化に対応する行動が求められます。飯田のまちづくりの姿勢は、学ぶことにあります。物事の本質を理解し、新風を取り入れて創意工夫することにより経験を積み重ね、応用する力を身につけます。私たちは、変化の激しい環境にあるからこそ、飯田で培われた学びの土壌で一人ひとりの「個」の力を蓄えることによって、地域全体で次代を生き抜いていきます。

グローバル時代に魅力を放つ価値の創造 「交流」

国際化、世代の価値観の変化が進む中では、個性を磨き、存在感を示すことが必要となります。飯田のまちづくりの姿勢は、交流することにあります。広く交流しながら、内と外の地域を結び、相互を理解し、融合することにより、新たな価値をつくり出します。私たちは、大交流時代にあるからこそ、積極的な交流から生み出される飯田の強みや新たな価値を磁石として、世界に届く存在感を示します。

新たな課題を解決し時代を切り拓く「共感」

本格的な人口減少の時代となることから、これから発生する経験のない課題を解決する必要があります。飯田のまちづくりの姿勢は、共感することにあります。自分たちの地域は自分たちでつくる自主自立の精神「ムトス」や、当事者意識を持って協力し合う「結い」の心で考え、新たな公共（1）をつくり出します。私たちは、右肩下がり時代にあるからこそ、自助・共助・公助を重層的に組み合わせ、地域の価値観を認め、支え合い、共感しながら、実りある未来づくりに挑戦します。

- 1 人口減少、少子化、高齢化の中で、必要とされる、地域で見守る子育てや介護、助け合いによる防災力の向上など、公共性の高いサービスを皆が協力し合って実現していくこと。

飯田市人口ビジョンでは、定住人口と滞在人口の2つの面から人口を捉えています。定住人口は、地方都市における全国的な人口減少傾向の中で、子育ての希望をかなえるための環境づくりや、若者が帰ってこられる産業づくりの取組などにより、人口減少を最小限に抑えることを基本的な考えとしています。一方、滞在人口は、定住人口に、観光、ビジネス、通学、買い物などで飯田市を訪れる人を加えた人数です。「人口流動化時代」に、飯田の魅力効果的に発信する取組を推進し、地域外から人を惹きつけ、30年後には定住人口を含め、約18万人の人が行き交う都市を展望しています。

【人口展望】 定住人口（2028年）96,000人（2045年）91,000人 滞在人口（2028年）156,000人（2045年）182,000人

基本的方向は、目指すまちの姿を実現するための戦略であり、道筋となるものです。地域経済の活性化や環境への取組など多くの先進的に取組んできたものを活かしながら、来年度（平成28年度）に市民、地域や事業者の皆さん、行政が具体的に検討していきます。

市民

地域

NPO

事業者

行政

第8回 未来デザイン会議意見等による修正作業について

次代認識について

	委員の意見	委員名	対応状況
1	ゆとり世代、さとり世代という表現がしっくりこない。	佐々木重光委員	「ゆとり世代、さとり世代」を「新たな価値観を持った若い世代」に修正した。

目指すまちの姿について

	委員の意見	委員名	対応状況
2	目指すまちの姿の前文の文章をシンプルにできないか。 また、目指すまちの姿に「飯田らしさ、飯田だから」できる言葉を入れたほうが良い。	佐々木重光委員	表現を検討した。 「飯田ならできる、飯田だからできる」を加筆した。
3	「私らしい暮らしのスタイルを楽しむまち」の中で、食文化に限定せず、文化と広く表現しても良いのではないか。	小島稔委員	「食文化」を「文化」に修正した。
4	「地域の応援で子育ての幸せが実感できるまち」の中で親が自信を持っていきいきと子育てに向かうような文言が入ると良い。	松村由美子委員	「親が子育てに自信を持ち」を加筆した。
5	生活、ビジネス、交流の3つは重要だが、生活に偏っている気がする。 生活7、ビジネス2、交流2も飯田の個性とも言えるのではないか。暮らしている人が楽しむこと、それが魅力となる。	大西達也専門委員 中田めぐみ専門委員	飯田ならできる、飯田だからできる、みんなでつくりたい「暮らしの姿」「まちの姿」を8つの姿として描く中で、リニア時代に大切にしたい視点として「暮らし」「仕事」「交流」を追加した。
6	飯田のまちづくりの姿勢を市民や小学生に説明するときにはもう少し噛み砕いて対応してほしい。	佐々木重光委員	今後、説明に各所へ出向く際にはわかりやすく工夫する。

飯田のまちづくりの姿勢について

	委員の意見	委員名	対応状況
7	水引産業だけが具体的となっている。他の産業も含めて見直しが必要。	中島修司委員	「食品産業、近年では市田柿の高付加価値化」を加筆した。

	委員の意見	委員名	対応状況
8	特に飯田のまちづくりの姿勢のなかで、人材、精神性の育成が重要であり、将来を担う人づくりや精神性を教育することで変わらない地域を支えることができるということを強調してほしい。	田内市人委員	「この精神をリニア時代を担う若者たちに引き継ぎ」を加筆した。
9	飯田のまちづくりの姿勢で、「学び」「交流」「共感」はムトスの精神から生まれる点を前文中で強調してほしい。	小島稔委員	「これら飯田の特徴的な取組は、ムトスの精神に基づくものであり、」と加筆修正した。

人口ビジョンについて

	委員の意見	委員名	対応状況
10	人口は10万都市を意識した方が良い。	佐々木重光委員	96,000人は、飯田市版総合戦略に基づく数字であるが、今後、未来ビジョン及び基本的方向の策定とあわせて検討する。
11	交流人口18万人のイメージが捉えられない。定義を明確に。	石神隆専門委員	人口ビジョンの欄に定義を加筆した。
12	交流人口について、外から来る人をどう捉えるか、飯田がどう目指すのかわかりやすく考える必要がある。	大西達也専門委員	定住人口及び交流人口の捉え方についての説明を加筆した。

その他

	委員の意見	委員名	対応状況
13	キャッチフレーズが入っていないため、イメージがわからない。8つのまちをつなげるキーワードがあるとよい。この未来ビジョンを説明するのに一言で説明しにくいと感じる。	石神隆専門委員 中田めぐみ専門委員	本ビジョンにおける基本的な考え方を「リニアがもたらす大交流時代に、多様性が輝き、世界に届く価値をみんなで作る」とし、市民みんなで新しい価値を創造するまちのイメージを表現した。今後、キャッチフレーズや都市像でわかりやすく表現できるよう検討する。
14	全体の構造は良いが、全体的に文字が多くなっている。	佐々木重光委員	今回は構想の全体像を一覧できるように整理したため文字が多いが、今後、各所で説明していくときには、絵や写真など工夫して表現していく。